

タイトル 『東京0番地』

作 三浦 実夫

登場人物

結城 真人

北里 憐子

山谷 譲二

一九九五年 お台場海浜公園 夏の終りの午後

海が一望できるお台場海浜公園の一角。
舞台中央に飲料水の自販機と空き缶用ボックス。
その右横に朱塗りのベンチが一脚。
上手に公衆電話ボックスとトイレの表示。
下手には水飲み場の水道蛇口が見える。

照りつける夏の太陽。

静かに波の音。

カモメの声がかしましい。

上手から、背広姿の結城が現れる。
顎の無精髭が伸びて黄昏ている様子。
持っている鞆をベンチに放り、自販機のチリ銭口を探る。
成果なく辺りを物色して歩き、ポイ捨て煙草を拾う。
空き缶用ボックスを漁り、空き缶を缶をとりだし、ベンチに座りチビた煙草に火をつける。

ピー、ピー、ピー、ピー。

ポケベルのコール音。

上着からポケベルを出して切る。

カモメの声がよぎる。

結城 カモメ……。

と、呟いて空を仰ぎ見る。
下手から憐子が現れる。

タンクトップに薄手の上着を羽織り、短パンに赤いズック靴を履いて、肩からショルダーバッグをさげ、手にストロー付きM印のカップを持っている。
自販機の前で立ち止り結城を一瞥。
暫し、自販機に身体を預けて海を眺める。
腕時計を覗いて、ケイタイを出してプッシュ。
トルー、トルー、トルー。

コール音が鳴り続け留守電に変わる。

留守電の音声 「こちらはNTTドコモです。おかけになった電話は、電源が入っていないか、電波の届かない場所にあるためかかりません……」。

ケイタイを切り、ストローで飲料水をすすする。

結城、ストローの音で隣子に気づく。

暫らく隣子を観察する。

結城 待ち合わせかい？

隣子 ……。(と、無反応)

結城 いや、私も待ち合わせでね……。

と、気拙く海に視線を戻す。

長い間。

隣子 だから？

結城 あ、いや、なんでもない。なんでも……。

間。

隣子 で、誰を待っているんです？

結城 ああ、運命……かな……。

隣子 運命って待つもの？

結城 今の私にはね……。

隣子 それでいつ来るんです。運命？

結城 十日は待ったかな。

隣子 十日も？ こんなところで？

結城 もう、すぐだがね……。

カモメの声。

結城 君は誰を待ってるんだい？
隣子 運命の人……ならいいんだけどね。

結城 と、言うとは？

隣子 か・れ・し。

結城 ああ、デート？

隣子 明日、ライブやるんですよ。

結城 えっ、ここですかい？

隣子 その下見。「景気わりーし、世の中病んでつからよ！ 仲間集めて、みんなで思いっきりロックしてーんだよ！ ロックンロール！」……だって。

結城 ライブか、いいなあ……。

隣子 小父さん、音楽好きなの？

結城 ああ、特にロックはねえ。エルビス・プレスリーから始めて、チェック・ベリーにバディー・ホリー。ビートルズ、イーグルスと来て、ピンクフロイド、キングクリムゾン……。

隣子 私は、音楽嫌い！

結城 えっ、なんで？

隣子 大体ゲリラライブなんて、なんの意味があるのって感じ。金貰えないアマチュアバンドが集まって、馬鹿みたいに夢ばかり追いかけてさ。自己満足してるだけなんだ……。

結城 でも、夢を持つのは大切なことだよ。音楽で世界を変えられる。そう信じた連中が居た。なんていうかそのスピリッツと魂が……スピリッツと魂は同じか……。

と、立ち上がって上着を羽織る。

結城 ライブ会場なるんじゃ、寝転がってる分けにいかん……。

隣子 なんで？ どうせゲリラライブだよ。

結城 いや、静かにして欲しいんだ。

隣子、バッグからチラシを出す。

隣子 これ、チラシ……。

結城 (手に取って眺め) 結構いっぱい出るんだね。

隣子 どれも、大したバンドじゃないけどね。

結城 君の彼氏は？

隣子 (チラシを指さし) じゃきーん。

結城 JOGI(G) ギターか。ハンサムじゃないの。

隣子 えーっ、譲二が？ どうみてもガチャピンでしょ。

結城 ああ、緑の……君は出ないの？

隣子 はあ？ 出るわけないじゃん。
結城 どうして？ 良い声してるのに。
隣子 なにそれ、お世辞？
結城 いや、本当に良い声してるよ……。

と、入念にチラシを眺める。

隣子 小父さんは、何屋さんなの？
結城 さあ、何屋さんだろう？ 今は無職屋さんだ。
隣子 新米ホームレス？
結城 ま、そんなとこだ。
隣子 で、このベンチが仮の宿か？
結城 仮ならいいがね。
隣子 ふーん、それで運命を待ってる……。

と、カップの飲料水をすする。
空のカップを持って空き缶ボックスへ。

結城 ちよ、ちよっと！
隣子 えっ、なに？
結城 そのカップ……貰えるかな？
隣子 だって、空だよ？
結城 空でいいんだ。空で……。

と、隣子のカップを奪い水道蛇口に走る。
隣子、その隙に鞆を点検する。
結城、カップを揺すりながら戻り水を飲む。

結城 あー、美味しい。森羅万象、水は命の源泉だ……。
隣子 ああ、で、氷か？
結城 公園の水は生ぬるくてね……。
隣子 (自販機を指して) お金持ってないの？
結城 ああ、若い三人連れにからまれてね。
隣子 えっ、チーマー？
結城 っていうのかな？ 財布ごと持っていかれた。
隣子 えーっ、キャッシュカードは？
結城 結構な迫力でね……。
隣子 えーっ、暗証番号教えちゃったの？
結城 取引中止のカードだ。彼らに八つ当たりされて、蹴飛ばさ
されたATMには、気の毒なことしたがね。

隣子 (笑って) 気の毒なチーマー。

結城、テレフォンカードを取り出して。

結城 これが、いまの全財産……。

隣子 テレカ？

結城 名刺入れに紛れていてね。

隣子 (手に取り) 五千円のオニユージャやない。金券ショップで換金すればいいじゃん？

結城 そうか、その手があったか。

隣子 豊洲に金券ショップあるよ……。

下手から、ギターケースに、革ジャンとズボンを抱え、海パン一丁の譲二が現れる。

隣子と結城の様子に自販機の側に佇む。

結城 三千円でどうかな？

隣子 わたし？ いらない。

結城 じゃ、二千円……。

隣子 公衆電話使わないもん。ジャジャーン！

と、結城の目の前にケイタイを突きつける。

結城 ケイタイ電話か。

隣子 おじさん、持っていないの？

結城 これならあるがね……。

結城、おもむろにポケベルを出す。

隣子 ポケベルかあ。

結城 結構、便利なんだよ。

隣子 帰んなよ。

結城 えっ？

隣子 家にさ。連絡きてるんだろ。家族から？

結城 まあね……。

隣子 (テレカを返して) これで電話してさ。

結城 今は、運命を待つしかないんだ。

隣子 ふーん、で、小父さんは、その運命がくるとどうなるの？

ジャン、ジャン、ジャーン！

と、ギターを弾く譲二。

憐子 あら、いたの？

譲二 ああ、いたよ！

憐子 なんでケイタイでないの？ 遅刻するなら遅刻するって、こういう時のために買ってやったんじゃない！

譲二 使い方がよくわかんねーんだよ。

憐子 で、なんで裸なの？

譲二 糞あちーんでよ。泳いで来た……。

と、ギターをケースに戻し、ズボンを履いて革ジャンを羽織る譲二。

譲二 で、あんた誰よ？

結城 ご覧の通り、ただのおっさんだ……。

譲二 ふーん、ただのねえ。

と、結城の上着の襟を返して見る。

譲二 ベルサーチ……。

結城 どうも、邪魔のようだね。

譲二 うん、邪魔！

憐子 ちよっと！（と、譲二の尻を叩く）

結城 いや、いいんだ。久しぶりに話ができて楽しかったよ。

と、カバンを掴んで立ち上がる。

憐子 どこ行くの？

結城 私も、ちよっと下見にね。

憐子 なんの下見？

結城 運命とのデートコースかな……。

譲二、結城の鞆を見詰めて。

譲二 ルイス・ヴィトン！

結城 ん？ 邪魔したね。

と、上手に去る結城。

譲二 誰なんだよ。あいつ？

憐子 ホームレスの小父さん……。
讓二 嘘こけ！ 鞆はルイス・ヴィトン。背広はベルサーチだぜ。
ホームレスなわけねえだろ？

憐子 なりたてなんだった。
讓二 ふーん。しつかし、ベルサーチ着たホームレスとは世も末だぜ。バブルで散々甘い汁吸って、成れの果てがホームレス。へっ、いい気味だ。罰があつたんだよ。ばーちが。

憐子 別に、小父さんの罪じゃないだろ？

讓二 ケツ、あの悪臭だけで充分犯罪だよ。

憐子 よく言うわね。自分が臭いの棚に上げて。

讓二 えっ、まじで？ どこが、どこが？

憐子 脇とか……。

讓二 ほんと？ まじかよ！ やっぱ臭い？

讓二、両脇の臭いを嗅ぎまくる。

憐子 (呆れて) バツカみたい！

讓二 で、なに話してたんだ？

憐子 世間話……。

讓二 それだけ？

憐子 それだけえ！

讓二 (意味深げに) ふーん、世間話ねえ。

憐子 なに、なにが言いたいの？

讓二 なんか値段の交渉してたからさ。二千元とか三千元とか。

憐子 だから？

讓二 営業してんじゃねえのかって……。

憐子 はあ、なんの？

讓二 風俗……。

バシッ！

言い終わる前に平手が讓二の頬を鳴らす。

憐子 だったらどうだって言うのよ！

讓二 (臆さず) 俺、お前の分も稼ぐからさあ！

憐子 ふん。自分の生活もできてないくせに！

讓二 やっぱ、俺落ち着かねえんだよ。なあ、そのうちぜってえ売れて、売れまくって稼ぎまくるからさ！

憐子 そういうことは、稼いだから言っつて！

讓二 そうだけどさ。俺、絶対なんとかするからさあ……。

憐子 ありがとう、讓二……。

憐子、讓二のホッペに軽くキスをする。

憐子 でも、その話はしない約束だよ。

讓二 ああ、分かっている。分かっているけどさあ。

憐子 それより、ライブの成功が先じゃないの？

讓二 (ぐずぐずと) そうだけどさあ……。

憐子 病んでる世の中がひっくり返る、ビツクなライブにするんでしょ！

讓二 そ、そうだよ……。

憐子 みんなまとめて、ラブ&ピースにするんでしょ！

讓二 そーだよ、そーだよ、そうだよ！ 畜生、景気悪いのがなんだってんだ！ みんなまとめてぶっ飛ばしてやるぜ！ ロックンロール！

憐子 その意気だよ。はい、会場のマップ……。

と、バッグから地図をだして讓二へ。

讓二 おっ、サンキュー。

憐子 ねえ、会場は向こうの砂浜にしない？

讓二 なんで？ ここでいいだろ？

憐子 狭いし、それに小父さんの住処だよ……。

讓二 (渋い顔で) 憐子、あのおっさんはよう……。

鋭く、カモメの声。

讓二、眩しそうに空を見上げる。

讓二 にしても、あちーなあ。憐子、コーラ……。

と、憐子に五百円玉を放る。

憐子、器用にキャッチ自販機へ。

地図を広げてメジャーを当てる讓二。

憐子、挿入口にコインを入れ損ねる。

憐子 あーっ、やっちゃったー。

と、自販機の前にしゃがんで下を覗く。

讓二 どうしたよ？

憐子 五百円玉……落としちゃったよー。

譲二 えーっ、どうしてそう不器用なんだよ。
憐子 だって滑っちゃったんだもん。
譲二 コーラー一本、買うのによー。

と、メジャーを手に憐子の側に来る。

憐子 一本だろうが百本だろうが、落とすときは落とすの！
譲二 本数の問題じゃないけどさあ。そもそもギタリストってのは
よう、常に指の先の神経をだなあ……。
憐子 あたしギタリストじゃないし……。
譲二 いいから退いて……。

と、メジャーを延ばして腹這いになる。

譲二 で、どっち転がったよ？
憐子 左の方かな……。
譲二 暗くてなんも見えねえな。ライター照らせライター！

と、憐子に百円ライターを渡す。
憐子、譲二の鼻っ先でライターを擦る。

譲二 アチ、アチッ！（と、跳ね起き）アチーイよ。お前！
憐子 あ、ごめん！
譲二 もー。前髪燃えちゃったじゃねえかよー。
憐子 本当だ。パーマかかっているう。
譲二 感心してんじゃねえよ！
憐子 ごめーん。
譲二 いいから、奥から照らせ奥からよ……。
憐子 はーい。

憐子、自販機の横に移動してライターを擦る。
繰り返し何度も擦るが着火しない。

憐子 （必死に）あれっ、あれっ？
譲二 どうしたよ？ 早く照らせよ！
憐子 ガス、切れみたい……。
譲二 えーっ、なんだよ。それよー！

と、憐子からライターを奪って試みるが着火しない。
譲二、怒ってボックスにライターをぶち込み、メジャー

で自販機の下を自滅多矢鱈に引つ掻きだす。
ゴミに混じって雨晒しのエロ本が出てくる。

譲二 おっ、デラベっぴん！

と、エロ本を見開いて魅入る譲二。

譲二 すげえ。へー諸見え……。

憐子 なにしてんの？

譲二 (エロ本を後に隠し) なんでもね。憐子、もう諦めろよ。

憐子 なんで？

譲二 自販機ごと退かさねえと無理だよ。

憐子 まだ、何もしてないじゃない。貸して！

と、メジャーを奪い自販機の下を掻き回す。

憐子 貧乏のくせに金を粗末にするんだから！

譲二 なんだよ。落としたのはお前だろ！

憐子 だから努力してるんじゃない！

譲二 たかが五百円にケチケチすんなよ。つたく、お前の金に対する執着は異常なんだよ。

憐子 何よ、自分のケチを棚に上げて！

譲二 俺のどこがケチなんだよ。

憐子 夕べのホテル代払ったのあたしだからね。

譲二 誘ったのはお前だろ？

憐子 譲二が行きたそうな顔するからよ！

譲二 その分サービスしたじゃねえか。

憐子 はあ？ サービス？ なにが？

譲二 そのー、あれだよ。オッパイ入念に愛撫したろ？

憐子 そののどろがサービスなのよ？

譲二 サービスだよ。大サービスだよ！

憐子 (堪忍袋の緒が切れて) もう、いやだ！

バシッ、と譲二のエロ本を叩き落とす。

バラけてぶっ散らかるエロ本。

憐子 もう、今日こそ別れる！

譲二 いやだ！

憐子 あたしもいやだ！

譲二 俺もいやだ！

憐子 じゃ、謝って！

譲二 なにを？

憐子 分かんないけど、とにかく謝って！

譲二、一瞬、返答につまり。

譲二 ご、ごめんちゃーい。

憐子 もう。早く下見に行きなさいよ！

譲二 へ、へえーい。

譲二、エロ本拾って下手に去る。

憐子 ああーっ、もおーっ！ 糞っーっ！

憐子、イライラが収まらず発狂。

空き缶ボックスをぶん投げる。

大きな音を発って空き缶がとっ散らかる。